保育園自己評価
マニュアル

社会福祉法人　東の会

保育所保育指針第１章総則保育内容等の評価のなかで、

（４）保育内容等の評価

ア　保育士等の自己評価

（ア）保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

（イ）保育士等の自己評価に当たっては、子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取組む課程などに十分配慮すること。

（ウ）保育士等は、自己評価における自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること。

イ　保育所の自己評価

（ア）保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。

（イ）保育所の自己評価を行うに当たっては、地域の実情や保育所の実態に即して、適切に評価の観点や項目等を設定し、全職員による共通理解を持って取組むように留意すること。

（ウ）設備運営基準第 36 条の趣旨を踏まえ、保育の内容等の評価に関し、保護者及び地域住民等の意見を聴くことが望ましいこと。

※児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第３６条

保育所の長は、常に入所している乳児又は幼児の保護者と密接な連絡をとり、保育の内容等につき、その保護者の理解及び協力を得るように努めなければならない。

と記載されています。

（１）保育士等の自己評価は、指導計画の中で評価が記載されているので、それをもって自己評価とします。（２）保育所の自己評価については、各園の実情に沿って、適切な方法で自己評価を行ないます。（３）法人では、保育所保育指針及び同解説、法人の事業計画との連携を図るために、各園の自己評価を基に次の手順により、各園自己評価の取りまとめをおこないます。

１）自己評価の方針

保育所の自己評価は、法人の理念・方針・事業計画等と密接に関連しています。近年、保育所運営は社会情勢、ニーズの変化と共に重大で多様な課題に直面しています。課題は、各園に共通する状況があり、その解決・改善が法人の事業計画の主要な課題となっています。そこで、法人各園に共通する課題を評価項目として選択し、経営会議にて評価し取りまとめます。その結果を事業の次期の改善課題として事業計画に反映し、法人全体で重要課題の解決を図り、各園の保育の質の向上を図ることを目的とする。

２）保育所自己評価の手順

①東京都福祉サービス第三者評価の評価項目を参考に保育園の評価項目を選択します。

②様式を定めて、評価及び改善を記載します。

③評価結果をホームページ等で公表します。

※　本マニュアルは、平成２６年４月１日より施行する。

本マニュアルは、平成３０年４月１日より一部変更して施行する。

社会福祉法人東の会
平成30年度　保育所自己評価の項目

カテゴリー・サブカテゴリー		評価項目	項目の選択
1　リーダーシップと意思決定			
	1　事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	①事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している	
		②経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
		③重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえ意思を決定し、その内容を関係者に周知している	
2　事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
	1　事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	①事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
	2　実践的な計画策定に取り組んでいる	①事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	
		②着実な計画の実行に取り組んでいる	○
3　経営における社会的な責任			
	1　社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	①社会人・福祉サービス事業者に従事する者として守るべき法律・規範・倫理などを周知し、遵守されるように取り組んでいる	
	2　利用者の権利擁護のために、組織的な取組を行なっている	①利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	
		②虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	
	3　地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている	①透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	
		②地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	○
4　リスクマネジメント			
	1　リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	①事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	
	2　事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	①事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	

5 職員と組織の能力の向上			
	1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	①事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
		②事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
		③事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
		④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	○
	2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	○
6 サービス提供のプロセス（認可保育園）			
	1 サービス情報の提供	①利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	
	2 サービスの開始・修了時の対応	①サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
		②サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行なっている	
	3 個別状況の記録と計画策定	①定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析及び課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	
		②全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	
		③子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	
		④子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	
	4 サービスの実施	①子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	
		②子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行なっている	
		③日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるように工夫している	○
		④日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	

		⑤保育時間が長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	
		⑥子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	
		⑦子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	
		⑧保護者が安心して子育てすることができるよう支援している	○
		⑨地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行なっている	
	5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	①子どものプライバシー保護を徹底している	
		②サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	
	6 事業所業務の標準化	①手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
		②サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている。	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動			
	1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行なっている	①事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている	○

社会福祉法人東の会
平成30年度　保育所自己評価の項目

カテゴリー・サブカテゴリー		評価項目	30年度評価項目選定理由、着目点など
2　事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
	2　実践的な計画策定に取り組んでいる	②着実な計画の実行に取り組んでいる	事業所の重要課題は、4園で共通しており、以下の課題がある。課題を毎月の経営会議にて目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を毎月発表し、重要課題の組織的な取組を実施している。 重要課題 ①職員の確保、定着、育成 ②①の土台となる理念の浸透とリーダーの育成 ③働きがいのある職場環境の醸成、特にチームワークの育成 ④保育環境の見直しと保育の質の向上 ⑤保護者への保育内容の説明、日々の連携 ⑥保育制度の変更への適切な対応
3　経営における社会的な責任			
	3　地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている	②地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	「みたけがいいね」と地域の方に思っていただける地域貢献活動の成果はどうであったか？
5　職員と組織の能力の向上			
	1　事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	職員は意欲的に仕事に取組むことができていたのか？定着への成果があったのか？
	2　組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	組織としての学びやチームワークなど組織力は向上したのか？
6　サービス提供のプロセス（認可保育園）			
	4　サービスの実施	③日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるように工夫している	子どもの生活や遊びが豊かに展開される工夫があったのか？
		⑧保護者が安心して子育てすることができるよう支援している	保護者の方への保育の説明や日々の連携はどうだったのか？
7　事業所の重要課題に対する組織的な活動			
	1　事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行なっている	①事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている	事業所の重要課題に対して、継続的に取り組んでいたのか？

社会福祉法人東の会
平成30年度　保育所自己評価の記録

保育園名
杉並大宙みたけ保育園

カテゴリー サブカテゴリー		評価項目	30年度の評価	今後の改善計画
2　事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
	2　実践的な計画策定に取り組んでいる	②着実な計画の実行に取り組んでいる	みたけでは、法人の4園の園長、主任による経営会議を毎月開催しています。バランススコア―カードの考え方により、ご利用者満足、職員満足、経営満足の3つのカテゴリー区分ごとに、共通の重点項目を決めて、毎月の課題と成果、翌月の取組むことを、経営進捗状況として発表しています。 このような手法を用いている理由は以下のとおりです。 ①近年の保育を取り巻く状況は激変しているが、その対応を園だけで行うことは非常に難しく、法人と園が一体となって取り組むことで改善がはじめて可能となります。 ②実際の課題解決には、園長・主任のリーダーシップが必ず必要であり、経営会議はそのリーダーシップを育成する場としています。 ③重点項目は、各園とも同じ内容が多く共通していることが多くあります。 ④同じ課題に対して各園が工夫して取り組んでいることを発表することで、他園にも課題解決に向けての取り組みが自園のヒントになる点などが有効です。 ⑤園長・主任への責任と期待がたいへん大きくなっています、同じ立場の職員が話し合う場を設けることで負担感を前向きな気持ちに変えていく同僚性の育成を図っています。 経営進捗状況で重点項目として取り上げた内容は、今年度のカテゴリー・評価項目において同様な事項があり、下記の項目を自己評価項目として取り上げました。	重要な経営課題は、単年度で解決することが難しい課題、園だけでは解決ができないことも多くあります。 計画の着実な実行には、経営会議のよる法人レベルでの検討や対応、園会議やクラスでの実践を連携して積み重ねて行くことが必要です。 難しい課題ほど、組織的にPDCAサイクルによって継続して取り組むことが必要です。今後も経営会議等により着実な計画の実行を図ります。
3　経営における社会的な責任				
	3　地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている	②地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	社会福祉法人には地域貢献活動が法的に義務付けられたので、経営会議で重要な取組みとして「みたけがいいね！と言われる活動」をテーマに取り組みました。 本園では、地域向け活動の担当者を決めて、自園による地域の子育て家庭向け子育て広場事業のほか、体験保育、ベビーマッサージ、マタニティーヨガ、園庭解放、などの多様な活動を、月ごとに開催し、年間を通じて活発に行ないました。	従来から、地域向け活動には積極的に取り組んでいます。園のある地域は戸建て住宅、マンションなどが多く、子育て家庭も孤立しがちです。地域の子育て家庭向けの取り組みの参加者も多くあるので、さらに積極的に地域向け子育て支援活動を進めていきます。
5　職員と組織の能力の向上				
	1　事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	④職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	法人では、人材不足の改善は、まず、「職員がやめないこと」として、働きがいのある職場づくりを重要な取組としました。取り組みを進めているが、法人全体では離職率が悪化してしまった。 本園では、園長が職員の性格などを踏まえて、個々の職員との面談を数多く行うなどきめ細やかな対応を心がけてるなど、さまざまなサポートを行なうことで勤務を継続しているなどの成果が出ています。 新卒の職員を継続して採用できていますが、意欲的に課題に取り組んでいる姿が見られ、施設内研修の取り組みも成果を上げて順調な成長が見られています。	職員の声からは、本園を職員が働きやすい職場として捉えていることがわかり、今後も現在の取り組みを進めていきます。さらに意欲的に仕事に取り組めるように、理念の浸透やOJTの充実を図っていきます。

	2 組織力の向上に取り組んでいる	①組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	法人では、「みんなでつくる、みんなの笑顔！」を理念に掲げているとおり、チームワークの醸成を重要課題にしています。保育の方向性でも「同僚性」の重要性が示されており、経験や年齢に関係なく、全ての職員がチームとして力を発揮することを重要な取組としました。 本園では、園長のリーダーシップのもとに、「思いやり保育」、同僚性の向上への取り組みを大切にしています。全体職員会議や昼礼で園長がチームワークの重要性を何度も説明し、ミドルリーダーによる日常の保育者間の話し合いを活発に行っています。連携のミスなどの課題が出た時には、すぐに園長が主体となって振返りを行ない、チームとしてどうすれば良かったかなどの意見を出し合うなど、意欲的な取組を行なっています。	園長のリーダーシップが発揮され、チームワークが良くなる取り組みを行なっていますが、成果には課題が出ています。サブリーダー層の職員のリーダーシップ育成にも取り組み、より小単位でのチームワーク、新しい職員がチームに馴染めるような取り組みも進めていきます。
6 サービス提供のプロセス（認可保育園）				
	4 サービスの実施	③日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるように工夫している	法人では、各園の特性を活かしつつ、各園ごとに重点的に取り組む保育を決定し、それに沿って保育が展開されることを重要な取組としています。保育所保育指針が改定され、その内容を伝える外部研修などが活発に開催され、研修を受講した職員から、自園の保育の考え方や進め方を変える意欲が高まっています。このような前向きな変革の動きを支援して、各園の保育の質の向上を進めてきました。 本園では、心身とも生き生きと健康で過ごすことをできるように、子どもたちが思いっきり体を動かしたり、主体的に活動に取り組めることを大切にしています。園の環境を見直し、異年齢保育、乳児の担当性保育を導入するなど、さまざまな工夫を実践して新しい保育に取り組んでいます。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を視点に、一人ひとりの子どもに配慮した保育に取り組んでいます。	保育の展開は、保育者の視点が重要です。特に、ミドルリーダーの役割が重要です。ミドルリーダーが主体となって、各クラスでの保育者同士の話し合いを活発にすることで、保育がさらに豊かに展開されるように進めていきます。
		⑧保護者が安心して子育てすることができるよう支援している	法人では、低年齢児からの保育や長時間の保育が拡大する中で、日々の保育における保護者の方と園との連携や情報交換が非常に重要になっています。保育内容の変更が必要になっていることを背景に、園の方から、園で取り組んでいる保育内容やその変更の内容を伝えて、ご理解をいただくことを重要な取組みとしています。 本園では、園の保育テーマとして「思いやり保育」に取り組み、思いやり木活動を使って保育テーマを保護者に伝えています。ドキュメンテーションの手法を用いて、園が目指している「子どもたちが主体的に行なう保育」の取り組みを、写真と言葉によるポスター展示に取り組みました。展示作成を通じて、保育者が子どもの姿を見る視点や保護者の方に伝えるスキルを高めることなどの学びの場としています。また、行事や面談などの時に、取り組んできた保育のねらいなどを説明して、保護者の方にご理解いただけるように工夫しています。	日常の保育のねらいや出来事を、保護者の方の状況に配慮してお伝えすることは、保育者にとってとても難しい課題です。しかし、保護者の方との信頼関係の構築には、日々の保育を行なっている各クラスの保育者こそが、このスキルの獲得が大切です。各クラスの保育者が自分の言葉で、保護者の方に、日々の保育や子どもたちの成長を話せるように育成していきます。
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動				
	1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行なっている	①事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている	法人では、上記の各項目で説明しているとおり、事業所の重要課題に対してPDCAサイクルを基盤に改善を行なっています。 本園は、年度、時期、行事、日々など園のさまざな活動の場面を通して、前回の振返りを基に、PDCAサイクルにより改善を行なっています。	今後も現状の手法を継続し、さらに工夫、改善を行ない、質の向上を図ります。その都度の成果を積み重ねて、課題を一つ一つ改善していきたい。